



内町小学校だより

第7号 令和8年10月5日

心に残る体験を大切に

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

今週、6年生は待ちに待った修学旅行に出かけます。各学年でも遠足が予定されており、子どもたちは期待に胸を膨らませながら準備を進めています。

学校では、子どもたちの学びを豊かにするために、「心に残る体験」を大切にしています。9月には4年生が徳島城博物館で琴に触れる体験学習を行い、「さくらさくら」の演奏に挑戦しました。5年生は企業の方を講師にお迎えし、投資と開発、環境保護について「トヨタ未来スクール」で学びました。

教室で学ぶ知識ももちろん大切ですが、実際にその場所を訪れたり、実物に触れたり、専門家から直接話を聞いたりすることで得られる学びには、教科書だけでは味わえない価値があります。本物を見て、聞いて、触れて感じたことは、子どもたちの心に残る感動や発見となり、学びをより深く豊かなものにしてくれます。11月には、内町まちづくり協議会のご協力のもと、3年に一度の地域の史跡を巡る「ひょうたん島オリエンテーリング」を開催する予定です。ふるさと内町・徳島の歴史や文化に触れながら地域を歩くことで、自分たちの住むまちへの愛着や誇りを深めてほしいと願っています。

本日の朝会では、本校の大先輩であり、世界最強クラスの磁力をもつ「ネオジム磁石」を開発した科学者、佐川真人先生のお話をしました。本校には佐川先生からいただいた色紙があり、そこには「立派な科学者になってください。」と記されています。子どもたちには、「どうしてだろう」と疑問をもつこと、「もっと知りたい」と思うこと、そして「やってみよう」と挑戦することの大切さを伝えました。それは、科学者になるためだけに必要な力ではありません。学習やスポーツ、芸術、日々の生活など、さまざまな場面で自分を成長させる原動力となるものです。子どもたち一人一人には、まだ自分では気付いていない、たくさんの力や可能性があります。修学旅行や遠足、地域学習などでの直接体験は、子どもたちの心を動かし、学びへの意欲や挑戦する心を育む貴重な機会となります。

これからも本校では、本物との出会いや心に残る体験を大切にしながら、子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、豊かな学びと確かな成長を支えてまいります。ご家庭におかれましても、お子様が学校で経験したことや感じたことについて、ぜひ話を聞いていただき、ともに成長を見守っていただければ幸いです。

<情報モラルの育成に向けて>

本校では、情報モラル教育にも力を入れています。個人情報の適切な管理やインターネットの安全な利用方法、情報機器の使い方が心身に及ぼす影響などについて学習しています。学校では、アプリも活用しながら、子どもたちが情報を正しく判断し、安全に活用する力を育てています。一方で、児童アンケートからは、睡眠時間が十分に確保できていない児童も見られました。ご家庭でも、端末やスマートフォン、ゲーム機の利用時間や就寝前の使い方などについてお子様と話し合い、ご家庭の実情に応じたルールづくりにご協力をお願いいたします。